

# 令和3年第1回三笠市議会定例会

令和3年3月19日（第3日目）

## ○議事次第（第3号）

- 1 開議宣告
- 2 議 事
- 3 散会宣告

## ○議事日程

- 日程第1 議案第17号から議案第23号までについて（大綱質問）  
日程第2 議案第4号から議案第16号まで及び議案第24号について  
（特別委員会付託）

## ○出席議員（10名）

議 長	8番	武 田 悌 一 氏	副議長	7番	谷 内 純 哉 氏
	1番	赤 川 征 視 氏		2番	浅 尾 三 吉 氏
	3番	折 笠 弘 忠 氏		4番	只 野 勝 利 氏
	5番	畠 山 幸 氏		6番	澤 田 益 治 氏
	9番	儀 惣 淳 一 氏		10番	谷 津 邦 夫 氏

## ○欠席議員（0名）

## ○説明員

市 長	西城賢策氏	副 市 長	右 田 敏 氏
総務福祉部長兼 新型コロナウイルス感染症 対策本部事務局長	金子満氏	総 務 課 長	藤 井 陽 一 氏
保健福祉課長兼 地域包括支援センター長	花 井 志 夫 氏	企画財政部長	小 田 弘 幸 氏
企画財政部参事	中 原 保 氏	企画調整課長	三 好 智 幸 氏
政策推進課長兼主幹	音 羽 英 明 氏	税務財政課長	坂 保 徳 氏
経済建設部長	松 本 裕 樹 氏	商工観光課長	後 藤 議 徹 氏
教 育 長 兼	高 森 裕 司 氏	学校教育課長兼 給食センター所長兼 高校生レストラン統括室長	阿 部 文 靖 氏
教育委員会次長事務取扱			
社会教育課長兼図書館長	若 山 勇 治 氏	病院事務局長	高 田 進 氏
消 防 長	下 村 義 則 氏	消 防 署 長 兼 総務予防課長	田 川 善 幸 氏

生活安全センター長 太田幸司氏 消防課長 秋山和則氏  
監査委員 内田克広氏 監査委員事務局長 豊口哲也氏

---

○出席事務局職員

議会事務局長 柳谷 忍氏 議会係長 若月厚志氏  
主任主事 青山初美氏

◎議長（武田悌一氏） 開会前ですが、報道機関から撮影の申出がありましたので、許可しております。

開会 午前10時00分

---

### ◎開 議 宣 告

---

◎議長（武田悌一氏） ただいまから、本日の会議を開きます。

---

### ◎日程第1 議案第17号から議案第23号までについて（大綱質問）

---

◎議長（武田悌一氏） これより、議事に入ります。

日程の1 大綱質問を昨日に引き続き行います。

通告順に従い、7番谷内議員、登壇願います。

（7番谷内純哉氏 登壇）

◎7番（谷内純哉氏） 令和3年第1回定例会に当たりまして、通告順に従い質問をさせていただきますので、御答弁をお願いいたします。

冒頭、コロナ感染症により多くの方がお亡くなりになりました。心から御冥福をお祈りいたします。また、多くの方がコロナ感染症にかかり、闘っている方々にお見舞い申し上げますとともに、早期終息を願うところであります。

三笠市の人口も8,000人を切るところまで来てしまいました。しかし、三笠市民が幸せを感じ、住んでいてよかったと感じられる1年であってほしいと願う今日この頃であります。どうか西城市長におかれましては、コロナ禍の中、大変かと思いますが、大企業のトップとして、かじ取りをよろしく願います。

私ごとであります。10年前の3月11日が、政治家を目指し、事務所開きをした日でありました。皆様も御承知のとおり、あの東日本大震災があった日でありました。これもまた多くの方が津波でお亡くなりになり、心から御冥福をお祈りするとともに、まだまだ癒やされない心にお見舞い申し上げたいと思います。

また、三笠においては、平成23年からの移住・定住施策を始めた年でもあります。共に歩んだ10年です。初心に返り、悲しんでいる人、困っている人に優しく、法律上できることとできないことがあります。寄り添い合い、日本一優しいまち、住んでよかったと誇りの持てるまち、市民が安心して暮らしていけるために、市民の負託に応えるべく努力していきたいと思っております。笑顔には税金もお金もかかりません。

さて、今定例会の市政執行方針について質問させていただきます。

「人が安心して暮らせるまち三笠」についての地域福祉についてであります。

同市については、高齢化率が日本、北海道、空知の中でも高いことは御承知のとおりで

あります。高齢者が孤立することなく安心して暮らすことのできる生活環境づくりとありますが、具体的に考えていることをお聞かせください。

次に、火災予防対策についてであります。

昨今、テレビ、新聞で、お年寄りの独り暮らしの家が火災に遭い、命をなくされる記事や報道を目にします。

そこで、高齢者を中心に住宅防火対策に重点を置いた防火指導を展開し、消防団は地域の市民の防火啓発活動を推進するとありますが、今後どのように推進していかれるか、具体的に考えていることをお聞かせください。

次に、「人と自然が共存できるまち三笠」についてであります。

まずは、文化芸術振興促進施設C i e l（シエル）についてであります。

昨年4月にオープンしてすぐにコロナ禍に遭い、本来の営業がかなわなかったことは承知しています。

市政執行方針に市民が広く文化芸術に触れる機会の拡充を図るとありますが、三笠出身者はもとより、多くの芸術に触れる機会があると考えますが、今後どのように進めていくのかお聞かせください。

次に、三笠ジオパークについてであります。

今年が4年に一度の再認定の年になります。再認定に向けて様々な課題に対し事業展開し、成果を上げていることは承知しておりますが、市民周知については、まだ強化していかなければと考えます。

食の街道づくり、あわせて、高校生レストランとの連携を強化してはと考えますが、新年度に向けての考え方をお聞かせください。

次に、学校教育のG I G Aスクールについてであります。

国が進める構想に基づき、情報を活用する力、子供たちの生きる力を育むためとありますが、端末機器の整備や研修についての考え方をお聞かせください。

次に、社会教育の図書館であります。

利用しやすい図書館とありますが、図書数もだんだん多くなっていくと思われませんが、現在の施設を今後どのように運営していかれるのか、考え方をお聞かせください。

以上で、登壇での質問とさせていただきます。答弁のほどよろしく願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） それでは、初めに「人が安心して暮らせるまち三笠」について答弁願います。

総務福祉部長。

◎総務福祉部長（金子 満氏） それでは、私のほうから、地域福祉についてということで答弁したいと思います。

まず、高齢者が地域の中で孤立することなく安心して生活できる、そういったような活動といたしまして、社協と連携いたしまして、ふれ愛チーム、ふれあいサロン、ふれあい昼食会等、そういったような事業を実施しているところでございます。

日頃地域の中で孤立しがちな独り暮らしの高齢者、高齢者夫婦も含めまして、寝たきりの高齢者を抱えている世帯、重度障害者世帯、それらを見守り、話し相手、生活の援助等を行いますのが、ふれ愛チームということになってございます。

それから、地域で暮らす高齢者の障害のある方を中心とした、地域住民と活動のお手伝いをするボランティアが、共同で事業を企画してございます、身近な地域を拠点といたしまして、触れ合いながら自主的な仲間づくりを行うのが、ふれあいサロンというような活動になってございます。

それと、3つ目の地域の高齢者集い、連携感、そういったものを深めながら、敬老会等の地域で集まるきっかけづくり、そういったことをふれあい昼食会という活動で実施しているところでございます。地域において、共に支え合う体制を支援しているということになります。

そのほかにも、ボランティアがふれあい健康センターで実施してございます、ふれあい喫茶、こういったもの、それから地域、地区の市民センターで週に1回コミュニティサポート事業を実施して、そういった中でも出てきていただいて交流をしていただいているということになってございます。

あとは、老人福祉センターにおきましては、各種事業、それから集いの場としまして、高齢者が家から出て楽しく交流できるような場所を提供しているところではございます。

今後とも、社協としっかりと連携を取りながら、地域におきます活動、集い、そういった場の提供、それから高齢者が地域で孤立しないよう、また、外に出て集まったり交流できるように、よりよい環境づくりにつきまして心がけていきたいと考えてございます。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 消防長。

◎消防長（下村義則氏） それでは、火災予防対策についてということで、高齢者を中心とした住宅防火対策、また、消防団の地域市民への防火啓発について答弁いたします。

令和元年の住宅火災による死者数は、全国で899人発生しています。そのうち65歳以上の方の死者が660人で、7割を超えております。また、その65歳以上の死者数のうち、逃げ遅れによるものが329人ということで、約5割近くとなっております。

そこで、逃げ遅れによる犠牲者を減らすために、平成23年6月1日に住宅用火災警報器の設置が義務化されております。

そこで、高齢者を中心とした防火対策としましては、設置後10年を経過した住宅用火災警報器について、電子部分の寿命や電池切れにより、火災を正常に感知することができなくなるおそれがありますので、その辺を中心に警報器本体を交換するよう、啓発活動について重点的に行ってまいりたいと考えております。

続いて、消防団の防火啓発活動につきましては、例年であれば、春と秋の火災予防運動期間中に、地域を管轄する消防団において、地域の住居各戸を訪問して、対面により防火啓発を行っているところでありますが、新型コロナウイルス感染症により、令和2年度に

つきましては、感染防止対策のため、対面による啓発活動を自粛しておりました。それで、何かできないかということで、各住宅の郵便受け等に防火チラシやリーフレットを投函して、啓発を行ったところでございます。

高齢者を中心とした住宅防火対策及び消防団における防火啓発活動につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、今後、対面方式を再開させて、安全・安心な三笠を目指して、引き続き防火対策及び防火啓発を実施していきたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

では、2点ありますので、順番に再質問させていただきたいと思っております。

地域福祉についてでございますけれども、このたびの雪の関係で独り暮らしの方々に電話なりパトロールなりで、行政のほうでも1回、2回と心配して回っていただいたということでございますので、本当にその辺は大変心強く思っているところでございます。

今年の春に岡山にコープの配送センターがオープンして、議長の代わりに僕が挨拶させていただいたときに、そのセンターの多分担当の方が、コープでも独り暮らしのところに宅配しているのですけれども、そこで見守り隊みたいな役割をさせていただいているのだということをお聞きして、行政にも確認しましたら、その辺も福祉の関係で対応いたしますということだったので、大変その辺うれしく思っており、どうか三笠のためによりしくお願いしますという感じで会話した覚えがあります。

そういったことも聞きましたけれども、ふれ愛チーム、ボランティアとか、いろいろ行政でもしっかりと行っているということをお聞きしました。本当にいいことだと思います。

こうしたことがとてもいいと思いますが、先ほどの民間の企業とも連携しているということでしたけれども、消防や関係所管との連携については、所管が違うといろいろと考え方も違うと思うので、その辺、二重にならないような、そういう連携というのは、どのように対応というか、連携されているのか、もう一度お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 総務福祉部長。

◎総務福祉部長（金子 満氏） お聞きしているのは横のつながりという部分かと思っております。今回の大雪に係る部分についても連携等を聞かれているというふうに考えてございます。

今年度、本当に経験のないような大雪で、市民の皆様それぞれ大変な思いをされたのだろうなということで、その中でも、やはり独り暮らしの高齢者だとか、障害をお持ちの御家庭、そういった状況、こちらのほうは常日頃、状況に応じて見回り、それにつきましては、積雪が本当に極端に多いとき、あるいは急な暖気も中にございました。そういったことで、落雪のおそれも十分にあったということで、それらをふれあい健康センターとして

は、パトロールを実施してございまして、今年度につきましては全体で17回実施してございます。そういった中でも、心配されるお宅には声をかけながら、それから玄関前が除雪されていないようなところも実際にございまして、そういったところは、玄関前の除雪を緊急に実施したり、それから玄関前にちょっと雪庇が出ているところもなかなかやっばりありまして、そういった部分もできる範囲で落としたりだとか、そういったようなことを職員がやってきてございます。

その際、消防本部とは、査察結果等で作成されております図面等がございまして、そういったものを頂きながら、情報の連携をさせていただいて、そして高齢者の調査に当たっていたというようなことになってございまして、豪雪対策本部が立ち上がった中、それ以降も十分本部との連携を取りながら、お互い取り組んできたというようなことになってございます。

今後も、しっかり連携を取りながら取り組んでまいりたいというふうに考えてございまして、よろしくどうぞお願いいたします。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

いろんな取組をされていること、大変心強く思います。

こんなことがあったのです。冬、2月でしたか、私の後輩に当たる友人が美園の市営住宅に住んでいるのですけれども、屋根の雪だとか窓のだとか、玄関はふれあい健康センターのほうで来てくれて開けてくれたのでしょけれども、その友人の母親が住んでいるのですけれども、昨日も市長が言いましたけれども、行政でできることできないこと、法律もありますから、自分の命は自分で守るという意味では、その息子さんが、行政で何とかしてくれないのかと僕に言うのですよ。でも、それは最低限のことは行政でしているはずですよ。そういう話をさせていただいて、そういう市民にも理解を求める努力を私はしているのですけれども、その友人は仲間もすごく多いのですよ。そういったところで、そういう友人たちで、何も電話一本やって、何時間かあれば除雪もできたと思うのですけれども、そういうときは僕に電話を下さいと、冗談ではないのですけれども、そう言った覚えがあります。

そういうことで、行政ができること、また我々が、先ほど言いました地域のみんなで、それぞれ独りで暮らしている方を守るという意味では、そういう努力もしていかなければならないと考えています。どうか安心して暮らせるような、そういうネットワークをどんどん広げて、本気で議会でも委員会の会長に、ボランティア、そういう雪はねしようと言ったのですけれども、高齢者も多いので無理は言いませんけれども、そんな話もした覚えがあります。

それでは、地域福祉については以上で、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、関連して、同じく火災予防対策についてでございます。

私も消防団に在籍中に、春と秋の啓発活動の経験があります。ちょうどそのときが、警報器の義務化が始まって、それぞれ一軒一軒啓発に、お願いしてきたところでございますけれども、特にお年寄りについては、制服を着た消防団が出向くと、大変喜んでくれるというか、安心していただけるようなことがありまして、何か困ったことがあったら言ってくださいよと一言かけると、なおさらに安心してくれると僕は肌で感じていました。

今回、コロナ禍で、消防団の方々も出動がかなわない部分があったと思いますが、今聞いたように、リーフレットとか、そういうことで、やっぱりそういう思いを一軒一軒届けたということは、すごくいいことだと思いますけれども、消防団で回るときには、独り暮らしだけではなくて、その地域全世帯にそういう対応をさせていただいた記憶があります。

そういう意味では、以前、職員の皆さんについては全世帯を対象に査察されていたと思うのですが、現在の状況はどのようになっているかお聞かせください。

◎議長（武田悌一氏） 消防長。

◎消防長（下村義則氏） 議員おっしゃるように、今年、消防団の活動につきましても、なかなか新型コロナの影響で思うような活動ができませんでしたが、その中でもできることを令和2年度についてはやってきております。

査察につきましては、現在は、65歳以上の独居世帯または準独居世帯を中心に査察を実施しております。例年であれば、対面査察を実施しまして、例えば火災や救急発生時の連絡先あるいは既往歴またはかかりつけの病院などの情報を聴取して、また、火気使用設備に指導事項がある場合は、その改善の有無まで確認しております。

令和2年度につきましては、先ほども言いましたように、新型コロナウイルス感染症により、感染防止対策のため対面による査察は中止しておりますけれども、その分、対面査察時に、先ほど言いました既往歴とか連絡先とか、必要な確認事項につきましては電話により確認しております。

今後は、やはり先ほども議員おっしゃるように、対面で訪問したことによって相手方もちょっと安心するのかなということも考えておりますので、新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、例年どおりの対面査察を実施したいと考えております。また、先ほど総務福祉部長からもお話あったとおり、消防で得たデータに関しましては、保健福祉課等含めて役所全体的に情報共有して、連携を取っていきたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。それぞれの所管、関係、連携を取っているということでございます。ありがとうございます。お年寄りの個人情報をちゃんと把握しているということ、かかりつけの病院とか、そういうことですね。分かりました。

そういう意味では、今後とも連携を取って生命、財産を守るべく、よろしくお願ひしたいと思っております。



これについては終わります。

◎議長（武田悌一氏） 次に、「人と自然が共存できるまち三笠」について答弁願います。

社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） まず、初めに、文化芸術振興促進施設C i e lの目的としまして、「小さな美術館」をコンセプトに、地元ゆかりのある画家の絵画やアンモナイトなどを展示する、市民の文化芸術振興を促進する施設としての位置づけと、隣接します高校生レストランを利用された方の待合などを利用し、楽しんでいただくための両方の機能を持ち合わせた施設として設置しております。さらに、三笠高校生レストランの集客力を生かし、一体的な取組を展開することで、市内のさらなるにぎわいの創出と地域の活性化を目指していくものであります。

C i e lの今後の運営に当たっては、道内における新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、様々な教室や企画展などを開催の予定であります。その際に、本施設は研修室のほか、入り口正面ホールにつきましても、展示パネルを取り外すことで多目的使用が可能となっております。

今後、市民の皆さんの多くの芸術に触れる機会に利用していただくための取組としまして、研修室においては、地元出身の新田志津男先生による日本画教室、また、多目的ホールにおきましては、他の美術館などの交換展示、あと市内小中学校の吹奏楽、音楽関係の大学、プロの演奏者などの各種ミニコンサートを開催するとともに、子供たちを対象とした各種イベントや、地元ゆかりのある方々の様々な作品展示、また、本市の歴史的な文化遺産などを紹介する特別展を開催するなど、市民が四季を通して広く文化・芸術に接する機会の拡充を図ってまいります。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 私のほうから、三笠ジオパークについて答弁させていただきます。

初めに、三笠ジオパークにつきましては、平成25年に日本ジオパークの認定を受け、いろいろなジオツアーを企画し、実施してきたところでございます。参加者におきましても、平成25年は1,016人でしたが、令和元年度は5,502人となり、年々増加傾向になってきております。

また、前回、再認定時に高い評価を頂きましたが、指摘された事項もございまして。この課題に向けて取組を進め、今年度再認定に臨んでいきたいと考えております。

御質問の市民周知についてでございますが、ジオツアーの募集や活動実績を広報みかさにおいてお知らせするとともに、新聞折り込みやホームページ、SNSなどを活用して周知を行っていききたいというふうに考えてございます。

また、高校生レストランの連携という部分でございますが、調理部の「まごころきっち

ん」で昼食を取り、ワイナリーを楽しむツアーや、製菓部とケーキ作りの体験、地域連携部とパフェ作りや、あとジオカフェ等によるキッチンスタジオの積極的な活用を行ってきました。

令和2年度は、全国的にコロナの感染拡大もありまして、ツアーの開催に多少影響を受けたところもございますけれども、新年度に向けましては、旅行客の動きも活発化されてくるというふうに推測してございますので、引き続き日本ジオパーク認定として、三笠にあるものを活用し、三笠ならではのツアーやイベントを構築しまして、また、高校生レストランの活用も行いながら、当市の観光振興に取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

まず、文化芸術振興促進施設について、再質問させていただきたいと思います。

まだ1年、やっと1年ですかね、4月から本来の機能をみんなにお披露目できるようになっていなかったのかと思いますけれども、これからだと思います。

コロナ禍が少しでも早く落ち着いて普通の営業ができるように、高校生レストランも同じことですが、それに伴って、例えば三笠高校出身者という中では、「GTO」という漫画を描いている、三笠高校出身の藤沢とおるさんという漫画家の方がいます。例えばですけども、その人の原画を展示するとか、例えば小日向さんの今までの多くのドラマや映画の台本だとか衣装などを借りて展示するだとか、三笠市民、道内でもそういうこと、目にしないものをとということも考えたらいいのかなというふうに考えます。

先ほどの身近な小中学生だとかの演奏もいいですけども、本当にふだん見られないものを展示してはどうかと思いますけれども、僕が考えられるのは今この2つぐらいしかないんですけども、皆さんの知恵を絞って、三笠高校生レストランだけではなくて、そういう美術館と言われる施設にも、そのために足を運んでもらえるような施設であってほしいと思います。

今後、新田先生の絵について、まだ絵があると思いますけれども、さらに続けられると思います。今後の予定はどうなっているか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 昨年、C i e lがオープンしまして、最初に新田先生の日本画教室をはじめ、子供たちのコンサート等を考えておりました。残念ながらコロナウイルスの関係で実施はできなかったのですが、私、来年、令和3年度の予算を考えるに当たりまして、それ以外に、議員おっしゃられるように、三笠出身でゆかりのある方々、先ほどの藤沢さんとかもそうなのですが、そういう方々の作品とか特別展示を実施していかなければ、なかなか集客は望めないかなと考えております。

なので、これから、本当に感染状況にもよるのですが、コンサートや絵画教室のほかに、そういう特別展的な作品を展示しまして、各種集客に臨んでいきたいと思っています。

ます。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） 高校生レストランの待合所という機能も備えているというふうになっております。どうか美術館C i e lでもお客さんが呼べて、逆に、来たときに高校生レストラン、また、お菓子を買う、買物をして帰っていただけるような施設になっていたきたいと思いますので、今後、期待しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎議長（武田悌一氏） よろしいですか。

次に、学校教育について答弁願ひます。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） それでは、私のほうから、G I G Aスクールの現在の端末の整備状況と、あと今後の件についてということで答弁させていただきます。

まず、G I G Aスクールに関わる端末整備につきましては、1人1台のタブレット本体については、昨日、来週末には機器を使える初期設定を終えて納品されるということで連絡が来ておりますので、そのような日程となっております。

端末のOSの選定につきましては、学校ごとに意向調査を行ひまして、あと、また人事異動の際にもスムーズに対応できるよう近隣の状況を確認の上、アップル社のi P a dを導入することとしております。そのほか、校内無線L A N、端末保管庫の設置、それから貸出用のW i - F iルーターの購入、それから周辺機器等の準備については、全て措置済みとなっております。

また、G I G Aスクールの今後効果的に進めていく目的としまして、デジタル教科書購入費を今回、令和3年度の予算の中で提案させていただいているところでございます。

今後につきましては、一斉、それから個別、共同学習などの様々な場面で活用していくとともに、有事の際に家庭に持ち帰って学習できる指導を行っていくこととなりますけれども、現在、学校ごとに教員のI C T担当者というものを設置ししまして、教育現場における指導方法や課題などを整理していく推進チームみたいなものを組織しております。教育委員会としましても、子供たちのI C Tの教育環境をしっかりと整備できるよう、連携を図りながら努めてまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

ちょっと確認ですけれども、i P a dはもう配られている、用意されているのですか。

（「はい」の声あり）

◎7番（谷内純哉氏） 分かりました。すみません。

小学生の低学年について、1人1台当たると思ひますので、その辺の教育という

か、指導というのは、どういうふうになっているかお聞かせください。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） まず、低学年にありましても、現在の社会環境から、既に家庭内におきまして、民間の学習教材の中でタブレット学習というのを始めている1年生もいると聞いております。私たちが思う以上にタブレットを新しい文房具として感覚で受け入れていただけるものとして、私たちとしては期待しているところもあります。

しかしながら、全ての低学年が簡単に家庭に持ち帰って対応できるためには、時間を要するものとして私たちも理解しておりますので、授業の中で確実に学びをステップアップさせていくためにも、前段でお答えいたしましたICT担当者と連携を図りながら、特に低学年につきましては、確実に進めていく必要があるというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

教える先生方も大変だと思うのですが、その先生方の研修について、先ほどちらっと話はありましたけれども、三笠の議員で、空知教育センターというところがあって、そこに行かせていただいているのですけれども、そこでそういう先生方の研修のほうをしているということで、その施設があるのですけれども、三笠については、その辺どういうふうに考えていますか。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） 教員の全体研修はその後お答えしたいと思いますけれども、まずGIGAスクールに関わる教員向けの研修につきましては、外部講師を既に招いて実施しておりまして、今月中にもう一度、タブレットが納品され次第、全教員を対象に研修を進めたいと考えております。

また、iPad、タブレットの使用マニュアルというものが、なかなか身近なところで使えるようなマニュアルがないものですから、これにつきましては、教育委員会独自に、今、作成しておりまして、それを全教員に配付したいと考えております。

全体的な研修においては、今後も三笠市教育研究所、それから外部団体とも連携を図りながら、必要な研修を重ねていきたいと考えておりまして、先ほど空知教育センターのお話もありましたが、必要に応じてそういった団体とも連携しながら進めていきたいとは考えております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） 三笠市については、北海道の教育研究所とか、そういうところの関係で話を聞きますと、空知教育センターについては、どちらかというところ、中空知から北のほうがよく利用されているということ、僕も4年間行かせていただきましたけれども、三笠からも協力金というか、お金を出している状況ですよね。その辺も、三笠の教員の方も多、そっちよりも北海道立教育研究所のほうが、そういう環境はちゃんと三笠の

場合は整っているということなのではないでしょうか。その辺お聞かせください。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） これまでの実績を見ますと、やはり北海道立の教育研究所と、三笠市教育研究所の夏季講座と、あとは外部団体の教科団体、国語だとか、そういった教科専門の団体、そういったところでの研修が主に三笠の教員の方は多いかなという実績がありました。

空知のほうも実際に使われてはいるのですけれども、やはり議員おっしゃるとおり、中空知系の先生方が集まる教育研究所という意味合いのほうが一番強いみたいで、必要に応じて学校のほうにも、こういう研修がありますということで連絡が来た際には活用するような感じになっておりますけれども、三笠の場合は北海道立教育研究所等の活用が今まで多いのかなと思っております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

教える先生方のことも時間がかかるとは思いますけれども、その辺もう一度聞きたいと思いますが、全てがタブレットを利用してということではないと思いますけれども、5年後までにそういう環境を整えてという、国の指導ですよね。その辺に向かって、もう一度聞きたいと思いますけれども。

先ほど、すみません、iPadでなくタブレットで、iPadはメーカーということですよ。タブレットはまだ、それを聞いたかったのですけれども、もう物は届いているのですか。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） 私たちが契約をしているメーカーに昨日届きました。その連絡が来まして、今その初期設定をした上で納品という契約になっておりますので、それが来週の半ば以降になります。今そういった整備状況になっています。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） 業者の方で、タブレットが不足しているのも、特にiPadは全国的に足りないところもあって遅れて入ってくるよという、三笠は大丈夫ですかということ聞いたので、ちょっと確認させていただきました。

なかなか慣れていくのに大変かと思いますが、どうか子供たち、先生方も一緒に連携を取って進めていっていただきたいと思います。

何かあったらお願いします。

◎議長（武田悌一氏） 学校教育課長。

◎学校教育課長（阿部文靖氏） もともとICTにつきましては、国の日本の教育として非常に必要な部分ということで、3人に1台ということで進めてきておりましたけれども、コロナのことがあって1人1台というのが令和2年度で急速に出てきていることに

なっております。

急に子供たちも使えるかとなりますと、やはりしっかりとステップアップさせていかなければなりませんので、それと、家庭に持ち帰ってと両面でやっていかないといけないと思っております、教育については、そこは、これから計画をつくりながら、しっかりと対応していきたいと考えているところでございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。今後とも、子供たちのためによりしくお願いしたいと思います。

GIGAスクールについては終わります。

◎議長（武田悌一氏） それでは、最後に社会教育について答弁願います。

社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 図書館ですが、市民の読書活動を支援するとともに、地域の情報拠点の役割を担う大切な施設であります。

現在の蔵書冊数なのですが、約3万4,500冊となっております。図書館の入り口の向かいに書庫がございます。その書庫の最大保管冊数は、約6万冊となっております。6万冊なのですが、今現在、保管しています閉架図書につきましては約6,000冊となっております。なので、今現在につきましては、書庫に余裕がある状況となっております。

続きまして、今後の管理運営についてなのですが、ブックスタートをはじめ、かるがも会の読み聞かせなど、ソフト面の事業を充実させていきたいと考えております。引き続き、小中学校への図書の貸出し等も行い、子供たちの読書週間の定着を促進してまいります。

また、今後におきましても、市民からのリクエストに応えるほか、定期的な蔵書の入替えを行うなど、現施設を大切に使用しながら、利用しやすい図書館づくりに努めてまいります。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

図書館の行事については、かるがもだとか、子供の読み聞かせだとか、いろいろやっていることは承知しているところですが、以前まで、たしかバスで市内を回っていたと思うのですよ、移動図書館みたくして。今は学校だけということなのですから、例えば市民センターに、今、コミュニティサポートといって、お年寄りに限らないのですけれども、そういう集まりがあるところに出向いて本を読んでもらうという、そういうことも必要かなと思いますが、その辺のお考えはありますか。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） コミュニティサポート事業なのですが、岡山から幾春別まで8区ございます。その地域に各本を配置していくという考えのときに、本のジャン

ルなども含めまして、実際の利用者のニーズ等も考え、どの程度あるのかなど調査するとともに、貸し出しするための手順や課題等いろいろあるかと思います。

その辺を整理した上で、その必要性について、今後判断していきたいと考えております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） 今の場所はどこでもあれですけども、お年寄りが、車のない方が歩いて借りにいくというのなかなか大変かと思いますので、そういうことを前向きに行ってほしいなと思います。

実は、去年、おとしですか、議員の研修で室蘭のほうに行ったときに、施設があって、生涯学習センターきらんというところがあって、そこが、民間ではありますけれども、図書館がありました。そこでは、2市3町、室蘭のようにはいかないかもしれませんが、そこでは、室蘭市、登別市、洞爺町、壮瞥町、豊浦町と、それぞれ本を置いて、どこで借りてもどこで返してもいいような状況になっていました。それは民間ですからあれですけども、それも1冊本が、何か所かあったら、どこかにありますよね。その辺の連携も取りながら、例えば市民センターに多少の本を置いてということも考えられるのかなと思うのですけれども、図書館でどこにどういう本があるかというのは把握されていると思うのですけれども、前にも言いましたけれども、市民がこういう本が欲しいというリクエストについては、広報だとかで新刊については載っていますけれども、その辺の運動はされていますか。別にやられているのでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（若山勇治氏） 市民の必要な本につきましては、窓口に来られました方につきましては、窓口で直接言っていただく場合と、あと紙に、アンケートがございまして、そういういろんな欲しいというジャンルの本を、どうですかということのやり方はやっております。

それ以外につきましては広報等の周知というのがあるのですけれども、メインは窓口での受け答えとなっております。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎7番（谷内純哉氏） 昨今なかなか本を読むような機会がないような気がします。インターネットだとかITの関係で、紙を見る、本を見るということ、結構この辺は大事なことだと思いますので、どうかその辺、頭をひねって、多くの方に本を読んでもらうように、ある本は有効に使われるようお願いをしたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） よろしいですか。

◎7番（谷内純哉氏） 終わります。

◎議長（武田悌一氏） 以上で、谷内議員の質問を終わります。

最後に、3番折笠議員、登壇願います。

(3番折笠弘忠氏 登壇)

◎3番(折笠弘忠氏) 令和3年第1回定例会におきまして、通告に従いまして質問させていただきますので、御答弁のほどよろしく願いをいたします。

昨年は、世界中が新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に陥りました。新型コロナウイルスによって多くのものを失ったことは事実ではありますが、新たな価値観が生まれたり、大切なものを再認識したりと、得られたものもあったように思います。新型コロナウイルスの脅威は当面続くことが予想されますが、2021年は少しでも早く、豊かで希望にあふれるまちとなるように、新しい生活様式や価値観を取り入れながら、この難局を乗り越えていかなければなりません。

西城市長はじめ、行政職員の皆様には、引き続き市民が安心して暮らしていただけるため、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図りつつ、各種対策を講じていただきますよう、よろしく願いをいたします。

それでは、質問に移らせていただきます。

まずは、市政執行方針、経済・産業の活性化への取組、「人が元気で働けるまち三笠」より、三笠の観光事業についての考え方についてお聞きいたします。

当市では、現在、30年後、50年後の未来を見据えた観光地域づくりを行うために、新たな仕組みづくりを始めております。約2年をかけて三笠ならではの魅力発信を行う運営組織を整備し、3年目以降に本格的に稼働していくという計画と承知しておりますが、改めて現在進行中の観光振興ビジョンの策定と、観光地域のかじ取り役となる観光協会が、未来の本来の役割を担うための組織の整備、いわゆる三笠版のDMOがどのような形で整備されていくのが望ましいのか、現在の進捗状況や課題、今年度の取組についてお聞かせください。

地方への観光客誘致においては、独自の自治体や組織ではなり得なかったことが、DMOとして幅広く連携することで、可能性が広がることがあります。地域の強みやコンテンツを様々な角度から見直し、この地域なら行きたいと思わせる魅力的なブランドを確立し、交流人口を増やして、地域の稼ぐ力を引き出す役割を担うという点で大きく期待をしますが、当市がこのDMOを整備することで、改めて期待できるメリットについてお聞かせください。

また、今後、新たに三笠の観光資源と考えられるもの、検討していることがあれば、併せてお聞かせください。

次に、商工業者が新たに取り組む事業や、起業家に対する支援策についてお聞きいたします。

市政執行方針において、商工業及び起業化については、持続可能な商工業の振興を図るために、引き続き商工業活性化事業やる気応援補助金などの制度により、商工業者や起業家に対する支援を行い、地域経済の活性化を推進していくとあります。



旧商工会跡地を中心とした中心市街地再整備計画等、将来的に必要な消費生活の確保や施設整備についても、今後、検討が進められていくというふうに考えますが、現状の消費基盤を守るために、経営者の高齢化、後継者不足による閉店などが続く三笠市の現状を踏まえ、その対策として、事業承継制度や、三笠高校OBの自立支援制度の構築と、現状の支援策の見直しや拡充に力を入れるべきと考えますが、行政の見解をお聞かせください。

また、当市は、人口減少や高齢化による景気の低迷、購買力の低下、経営者の高齢化による後継者不足等のほかに、今年のような豪雪、これは問題視しなければならないと思います。新たな雪対策、三笠の冬の過ごし方について支援策があると他市に類を見ない政策になるのではと思いますが、この雪対策について考え方があればお聞かせください。

次に、新型コロナウイルス感染症の市内経済対策について、特に売上げが減少している飲食店等に対する支援策についてお聞きします。

日本経済がコロナ禍と呼ばれる感染拡大にのみ込まれて1年が過ぎました。今もなお新型コロナウイルス感染症拡大が、当市の経済にも深刻な影響を及ぼしております。特に売上げが落ち込んでいる飲食業等がコロナ前の水準に戻るのはいつになるのか、本当に先行きが見えない状況が続いております。

今定例会に提出されました今年度予算において、新型コロナウイルス感染症の市内の経済対策として、年末に引き続き、第3弾の市内飲食店等持続化支援給付金の予算を計上していただいております。回復のめどが立たない飲食店等にとっての支えになっていただければと思います。

道内において4か月以上にわたった集中対策期間も、今月の7日に解除となりました。世界的にワクチンの接種が始まり、我が国でも2月から接種が始まり、当市においても4月の後半から徐々に接種が始まる予定ではあります。

ワクチン普及の期待は高まりますが、社会経済活動のアクセルを上げるきっかけとなるまでには、まだまだ先行きは不透明です。今後も市内経済、飲食業または関連する小売業等、厳しい状況が続くものと考えますので、引き続き状況を見ながらの対策をお願いいたします。

特にコロナ禍で対策として実施した、市内購買力促進対策事業、市内飲食店テイクアウト利用促進事業については、非常に効果があったことから、商工会からも実施の要望を頂いておりますので、御検討いただきますようお願いをいたします。その辺についても、行政の見解をお聞かせください。

以上、登壇での質問を終了させていただきます。御答弁のほどよろしく願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） それでは、初めに三笠の観光事業について答弁願います。

経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 初めに、三笠観光事業についてでございますが、DMOの登録を目指した組織づくりを令和2年度より進めてきているところでございますが、ま

ず1年目につきましては、観光地域づくり体制の構築に向けまして、市民へのインタビューや思いを形にするワーキンググループづくりを行いまして、法人組織のあり方や必要な知識を得るための先進地の情報収集などを行いまして、観光振興の方向性などについて議論を行いまして、どのような観光地域づくり法人を目指していくのかという部分を、仮説を立てながら検討してきたところでございます。

令和3年度におきましては、DMOの登録要件が主に5つございますので、これを満たすために、観光事業に関わる方、あと商業者、農業者などとも、関係者との合意形成だとか、あとマーケティング調査を行いながら、今後のKPI、KGI、また、PDCAサイクルの確立などの検討をしていくと。さらに各種団体との事業戦略の構築、DMO組織としての人材の検討、また、自立できるDMO組織の仕組みづくり、これらの検討を行いまして、法人の設立とDMOの登録を目指していきたいというふうに考えてございます。

観光振興ビジョンにつきましては、観光資源の現状の課題、今後の方向性、目標設定などを行いまして、観光戦略の組立てを行っていきたいというふうに考えてございます。

観光事業において、稼ぐ力となり得るのかという部分のメリットでございますけれども、まず当市の現在の観光売り込み人数は、年間で137万人のお客様にお越しいただいております。鉄道村では約8万人、みかさ遊園では2万人、スキー場で約1万人お越しいただいております、ここにお金が既に落ちているということになりますけれども、まだ稼ぐ施設になっていないということや、ここをベースにまだ見過ごしているものはないのか、もっと効果が生まれるようにできないのかと、このような観光戦略を観光協会が組織化を図り、取組を行うことで、稼ぐ力が創出されてくるというメリットがございまして、こういう形で取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

今後の考えられる当市の観光資源についてという点につきましては、やはり他市との差別化、また、売りにできるものといえば、やはり歴史と自然でございまして。この資源を、いかに付加価値をつけまして、三笠にわざわざ訪問する目的地となるように、観光の高度化を図ろうというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） 御答弁ありがとうございます。

それでは、何点かちょっと再質問させていただきたいと思っております。

今年度2年目ということで、観光協会のあり方というのは、長い間いろいろと議論がなされてきて、昨年やっという形で改めて整備をしていくということで、非常に期待はしております。

本来のこのDMOの役割をしていけば、いろんな形で、昨日の議員の質問もありましたけれども、例えば、ふるさと納税なんかのアイデアとか、いろんなものに力になっていくと思っておりますし、現状のジオの関係、そういったものもさらに魅力を発信する機会、そういったことができる組織になっていくのかなと思っております。

今後、これ観光庁の日本版のDMOという部分に登録しようという形になると思うのですが、例えば登録になった暁には、何か財政面ですとか、市にメリットというのはどのようなものがあるのか、ちょっとお聞かせ願えませんでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 現在、観光庁に登録がなされれば、観光庁から支援といえますか、そういった部分の補助がございます。主なものとしては、ほとんどがソフト事業の形になります。これにつきましては、事業展開していく中で、ある程度の事業に係る経費だとか、あと特に海外とかからお客様を連れてくる際の、いろいろな、まずはどうやったら連れてこられるかとか、そういった構築の、そのソフトの部分だとか、あと実際の事業展開を行っていく上で経費等々が観光庁から頂けるということになりますので、ぜひこの辺、国の補助金を活用して進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） 現在まだ登録になっている数も少ないのではないかなと思いますけれども、ぜひそういったメリットがあるということで、そこは目指していただきたいなと思います。今回、地方創生の推進事業も使っていますので、多分組織としては整備されるのだろうなというふうには思っています。ただ、実質、その組織が三笠市の稼ぐ力となるかというのが、やっぱり肝になるのかなと思っています。

それで、これ2年目で、今、検討中だと思うのですが、例えば運転費用的なもの、今、観光協会はお金がないものですから、スタートの時点で、もしくは組織自体に公費というものが入るのか、その辺の考え方をちょっと教えていただけないでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 先ほど令和3年度のまず取組として5つの項目の中でちょっと御説明させていただきましたけれども、我々としては、このDMO組織につきましては、やはり自立できるDMOではないと駄目だというふうに考えてございます。ですので、最初か何か運転の公費を、もう最初から投入してやっていくのだというのではなくて、やはり今年じっくりどうやったら自立できるのか、また、初年度の運転資金等々、多分いろんなものを展開していかないと、まず稼ぐことができませんので、そういった最初の例えば初期投資の部分、どうしていくかという部分につきましては、今年度検討をじっくり進めていきたいというふうに考えてございますので、あくまでも私たち三笠版のDMOを目指しているのは、自立できるDMO組織づくりをしてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） このDMOのあしき例として、やはり公費を頂いているところが、予算がなくなって公費が削られると、結局DMOとしての機能も低下するというような、そういう例もございますので、やはり本当にそこで自立して安定した収入が得られるような、そういった組織であるのがベターだと思いますので、その辺については、今後も

検討の中ですらしくお願ひしたいというふうにお思ひます。

今年度、先進地の視察等も検討されると言っているということなのですからけれども、今、具体的にもし場所等が定まっていらっしゃるのであれば、ちょっと教えていただきたいなとお思ひます。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） まず、DMOの成功されているというところの事例として、長野県飯山市の観光局だとか、あと豊浦町の観光協会、また、美瑛町の観光協会が、地域の観光資源にうまく付加価値をつけまして、PRする、ちゃんとした旗振り役がいて、加えてこれをバックアップする各種団体だとか住民と連動、連携して、来訪者客を増やしているというところでお聞きしておりますので、昨年、当初、長野県飯山市のほうに視察に行こうと思っていたのですが、コロナの関係もございましたので、向こうの担当の方とテレビ会議でちょっと行ったというところがございます。

また、ここの飯山市の直接担当されていた方が、実は現在、北大の先生をやっておりますので、この方にも今いろいろとアドバイスなどを聞いております。

また、今年につきましては、コロナの状況もございまして、できれば近郊の美瑛町の観光協会などに、いろいろな成功したもの等、あと失敗したものなども含めた中で、いろいろと聞いてこようかというふうにお考えでございます。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） ぜひいろいろ勉強してきていただければなとお思ひます。

これ、研修に参加されるのは、例えば今いろいろなワーキンググループと申しますか、団体だったり企業だったり、そういった方も行かれる予定なのではないかと。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 今、ワーキンググループの中には、市内の各団体等の、どちらかといいますと若手の方々にワーキンググループに参加いただいておりますので、ぜひこの方々を中心に視察に行きたいというふうにお考えでございます。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） ぜひ、そういった方々が生の現地を見られて、そういった意見も非常に重要になってくるのかなというふうにお思ひますので、よろしくお願ひしたいとお思ひます。

それで、現状、スキー場、それから鉄道村、今ある三笠のそういった観光資源は、まだまだ稼げる部分があるのではないかと申すこととお話を聞いてきました。それに再度力を入れていくということもございました。

私、新たな三笠の観光資源というものはどうなのだというお話をさせていただきましたけれども、ちょっと勝手ながら1つ提案させていただきたいのが、これ、もう大分前からいろいろ議論はあったのですけれども、例えば遊園のキャンプ場、今、実際いろいろな方が使用している現状がありますね。今、コロナ禍も手伝ったのか、芸能人なんかいろいろ

とユーチューブだとかいろんなところで発信して、非常にキャンプというのが、全国的にまた、非常に長いブームなのですね。三笠の例えばクロフォード公園の駐車場ですとか、道の駅もそうなのですけれども、大型のキャンピングカーなんかも停車していたりしているのです。

クロフォード公園なんかは、今、今後どういう利用価値があるのかなという部分で考えると、あの辺駐車場も広いですし、そういったオートキャンプ場みたいなことも今後考えてもいいのかなと思ったり、いろんなごみだとか問題は多少あると思うのですけれども、そういった多少お金をかけなくてもできるものがあるのかなという思いがあります。

また、例えば、今の三笠高校の駐車場を造ったちびっこ広場、今、半分ぐらい空いていますよね。ああいったところも、実はそういったキャンプの施設みたいなものもできるのではないのかなと。まちの中心の中でキャンプができる場所もあると、これもまた面白いのかなという部分で、今そういったブームもありますので、そして需要もあるので、できればその辺ちょっと検討していただきたいなという思いがあります。

子供たちも、今、本当にコロナ禍で家から出られないような状況があって、昔ですとゲームだったりパソコンだったりというのが、子供たちの遊びの中に一番というか、上位を占めていたのですけれども、今やはりそういったキャンプですとか、表でそういうアドベンチャー的なものをしたいという思いがあるらしくて、何かいろんな子供たちの作文の中でも、そういったものが出てきているようです。

ですので、周辺の市町村で、ほとんどそういった施設を持っていると思うのですけれども、三笠も実際、遊園の中にあるのですけれども、きちんとした形でない。三笠みたいな自然がきれいなところでそういったものがないというのも逆にちょっと不自然なのかなということ、できればちょっと検討していただきたいなというふうに思います。

何かあれば。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） まず、観光資源の一つとして、アウトドア関係という部分につきましては、かなり魅力的な部分もございますし、あと当市におきましても、観光資源につながる分野だと考えてございます。

先ほど議員おっしゃっていたとおり、最近キャンプが結構ブームになってきてございますので、実は、過去に市内でキャンプができないかと、オートキャンプ場がつかれないかという部分で検討を行ったところがございますけれども、なかなかキャンプ単体の施設として考えた場合に、収支バランスや投資効果を考えますと、なかなか難しい状況になっておりました、施設整備という部分については至っていない状況でございます。今回のDMOなどによって民間主導型の運営についてとなれば、私どもとしても相談に乗っていきたいというふうには考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） ぜひとも前向きに検討していただきたいというふうに思います。

それでは、DMOについては以上で終わります。

◎議長（武田悌一氏） よろしいですか。

次に、商工業者が新たに取り組む事業や起業者に対する支援策について答弁願います。

経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 商工業者が新たに取り組む事業や起業者に対する支援策についてというところで答弁させていただきます。

当市の飲食店や商店など経営されている方々の高齢化が進み、体力面においても事業の継続が今後難しい状況になるということは認識してございます。店舗などの継続に当たりまして、新たな方に事業の継承をスムーズに行って存続を図らなければならないと考えておりますが、事業継承をスムーズに行うために支援制度の見直しを行っても、その店舗も、まず継承者を見つけるという部分について、非常に厳しい状況でございます。さらに、三笠高校のOBにつきましても、夢に向かって進まれている方に三笠に回帰してもらうことも、制度設計だけでは難しいのだろうなというふうに考えております。

事業継承につきましては、例えば、花屋がそのままお店を引き継ぐケースと、あと飲食店のその味自体を引き継ぐといったケースでは条件も違うため、継承者も限定されてきます。そのために、まずは様々なケースを考えまして、事業継承を行うためのシステムづくりをした上で、支援策をどうしていくのかということを考えていかなければならないと思っておりますので、まずはここから進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） ありがとうございます。ぜひ事業承継については、システムづくりを早急に行っていただきたいなと思います。

現状、今、正式な事業承継という形ではないですけれども、大きな居酒屋さんですとか外食店が、経営者が今替わってきている状況なのですね。今後もやはり今ある飲食店のそういったところが、高齢化によって店をどうするかというようなお話になっていくのかなと思います。どれだけの数が減ることになるのか、それはちょっと調査しなければ分からないですけれども、いずれにしても、三笠市という中で商いをしていくというのは、非常に人口減少もありますし、厳しい。

ただ、事業承継という部分で考えれば、ゼロからのスタートではないということなので、例えばお店をやるにしても、リスク的には多少抑えられるのかなと。ただ、建物なんかはやっぱり老朽化していますので、その辺もちょっとネックになる部分は出てくるとは思うのですけれども、いずれにしても、今何件かそういうお話も出ていると思いますけれども、今後も考えられますので、ぜひともその辺については、そのシステムですか、早急に検討していただきたいと思います。

それで、昨日ちょっと御報告を受けたのですけれども、残念ながら事業承継で動いていたところができなくなったというお話を聞いています。ちょっと高校OBの前に、今回非常に豪雪だったものですから、多分今回来られた方、たしか大阪の方だったというふうに

お聞きしているのですけれども、あまり雪を経験していない、そういう部分も多少あったのかなというふうに思うのですけれども、その辺どうだったのでしょうか。ちょっとお聞かせ願います。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 確かに本州から来られた方で、雪の状況等々は来るときに御説明させていただいておりますけれども、肌で実感したという部分は、多分初めてだったのだろうなと思ってございます。

また、すみません、先ほど雪対策の部分で御質問あってちょっと御答弁していなかったのですけれども、なかなか雪に特化した制度という部分が、そこをつくっていくよりも、やはり事業継承していくという上で、一番課題といいますか、大切な部分は、初期投資の部分なのかなというふうに考えております。土地、建物、あと生産性の向上のための設備投資、この部分をどうバックアップして収入確保につなげていけるかという考えのほうが良いのかなというふうに考えてございます。

また、地域おこし等々で本州から来られるような方々につきましては、きちっと当市のまず雪の状況の説明と、あと、この豪雪地帯でもしっかりと皆さん経営なされているというところは、しっかりとお伝えしてまいりたいというふうには考えております。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（小田弘幸氏） 先ほどの事業継承の部分につきましては、地域おこし協力隊ということもあったものですから、その状況という中では、決して雪が多くてそういったことが駄目だったわけではなくて、家庭的な事情を含めてちょっといろいろあったものですからそういうことになったということで、御理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） ありがとうございます。ある意味安心したといえますか。

ただ、昨日から雪の問題については各議員からもありましたけれども、やっぱりこれだけ降ると。ただ、三笠市民は、やっぱり何だかんだいって、これ対応できているのです。やっぱり除雪の仕方ですとか、そういったものも、お年寄りでも口ではもう大変だ大変だと言いながらも、きちんとやられているというのが現状で、そういった部分はやっぱり三笠市民は雪には強いなと改めて今年も思ったわけですが、でもやっぱりそういった雪の経験のない方々にとっては、かなり脅威になるのかなと。

お金がどうのこうのではありませんのですけれども、やっぱり三笠市の冬の過ごし方という部分、三笠市民が一番よく分かっているのですけれども、そういった部分を改めてレクチャーしてあげるということも、そういう部分もあってもいいのかなとちょっと思ったりもしています。当然、ああいう大きい雪だとかは、これは永遠のテーマですが、そういったものが少しでも少なくなればいいのですけれども、今現状ではなかなか難しいということもありますし、多分これ、東京辺りでこういう大雪になれば今のタイヤショベル

の精度も、置き雪ができないような、そういったタイヤショベルが開発されたりということもあり得るのかなと思うのですけれども、まだまだこの辺の部分は、なかなか難しいのかなというふうに思っています。

いずれにしても、そういった雪の問題、昨日からありましたけれども、今後も永遠のテーマですけれども、こういった事業承継の場合には、来られる方にも、そういったレクチャーをしてあげていただきたいなと思います。

それで、次、高校OBですね。

私も、もともとこの高校の卒業生たちが、次のステップアップをしていただいて、いろんな各地で活躍をしていただけたというのがあったので、三笠に残っていただいたり、真っすぐ帰ってきて店を開いていただいたりと、これは理想的にはあっていただければいいのですけれども、なかなかその辺については子供たちの夢もありますから、強要はできないのかなと思っていましたので、こういった制度が今すぐ必要ではないのかなと当初は思っていたのですけれども、今、地域おこし協力隊でいてくれたり、現状いるものですから、やはりそういった部分でいきますと、その方たちが今後自立していくための支援というのは、特別にやっぱり僕はあってもいいのかなと。それを使う使わないというのは、そんな人数ではないと思うのですけれども、やっぱり予算として毎年取っておく、制度もしっかりつくるといことなんでしょうけれども、そういったものが今後あってもいいのではないのかなというふうに思っています。

だから、事業承継の部分でも、例えば三笠高校のOBの方が事業承継をされるという可能性もありますので、そういったときには、OBが自立支援するという制度をダブルで使えることになれば、なお起業していくという部分では有利になってくるのかなというふうに思いますので、食の基本条例の中で、昨日、市長もOBについてそういった制度も考えなくてはいけなというお話もしていたので、ぜひとも、今年は第8次最終年で、第9次に向けて、そういった部分の制度も検討していただきたいなというふうに思っております。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） まず、三笠高校のOBにつきましては、現在、地域おこし協力隊で来ていただいている部分もございますので、この方々にもいろいろなちょっと、今後もどういった、起業化に向けてできるのかだとかという部分は、ぜひ相談してみたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） よろしくをお願いします。

それで、ちょっと事業承継の部分で1点、これ早急に検討していただきたいものがありまして、今、やる気応援補助金、その中に、事業承継事業の研修期間支援指導助成事業というのがあるのですね。これは、いわゆる継承をする側の補助金ですね。一応6か月間が限度となっていて、1日当たり1,600円なのです。これ、時給ですかというお話なのですよ。



なかなかこの辺が、味だったりいろんなものを伝授するのにお金ではないのですけれども、やはりよりそういった部分の中で、事業継承する側にも、やっぱりそういった、教えていくためには時間だったりするので、この1日当たり1,600円というのはぜひとも、このやる気応援補助金ができたのがもう10年たつと思うのですけれども、多分その頃はそんなに事業承継はなかったと思うので、この辺はぜひとも早急に検討していただきたいというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） この事業継承の制度設計をしたときには、確かにまだこういった動きがない中で、制度設計させていただいたところでございます。

後継する側のこの1,600円の部分につきましては、あくまでもこの方、ふだん経営されて、収入がございますから、その辺も判断してこういった額に設定させていただいて、安いという感覚ではなくて、この辺が妥当だというふうに判断して制度設計させていただいたというところでございます。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） それは分かるのです。ただ、例えばもう店を閉めてしまった後に、そういった事業継承するという部分でいくと、その人に利益、お金、そのときにはないのです。そう考えると、こういったものがあれば、例えばそこで、うちはもう閉めてしまったので、それ多分しないよという話になってしまう可能性もあるのですよ。ただ、こういうものがあれば、そういった部分の助成もできますから、ぜひともという話もできると思うので、ぜひとも検討していただければと思います。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 先ほども申しましたとおり、事業継承を行うためのまずはシステムづくり、ここの部分をしっかりと考えていきたいというふうに思っております。その中で、どの支援策がいいのかという部分についても、併せて進めていきたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） それでは、最後に新型コロナ感染症等により売上げが減少している飲食店に対する支援策について答弁願います。

経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） 新型コロナ感染症等により売上げが減少している飲食店に対する支援策というところにつきまして答弁させていただきます。

まず、現在の市内の新型コロナウイルス感染症に伴う事業者の現状につきまして御説明させていただきますと、まず企業倒産や解雇、雇い止めなどは発生してございません。

業種別に御説明いたしますと、サービス業、小売業につきましては、例年ベースから比較しますと、売上げは若干落ちてはいるものの、プレミアム券による大きな効果により、一定の売上げが確保できたというふうに考えてございます。

また、当市では、消費側の収入が大きく落ち込んでいるわけではございませんので、生

活用品や、あと美容などの消費につきましては、元に戻っているというところで、多少のぜいたく用品は控えている方はいらっしゃるのかなというふうに考えておりますので、これから夏に向けて消費喚起されていくものというふうに予測してございます。

あと、卸売業と製造業につきましては、昨年ベースに既にもう回復しておりますので、問題はないのかなというふうに考えております。

建設業につきましては、国や道の公共工事は例年ベースで発注されたというところがございますけれども、民間工事がかなり減ったため、市内の雇用確保を目的に、前回議決を頂きました追加工事を確保させていただいたところがございます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、北海道で集中対策期間が今月の7日まで延期されていたということもございますので、市内の飲食店と、あとホテル、旅館につきましては影響がございまして、売上げが減少してございます。特に従業員を複数雇用し売上げが一定の飲食店につきましては、影響も大きく、雇用の維持にも影響が出るため、今回支援の予算を御提案させていただいたものでございます。

あと、プレミアム券とテイクアウトにつきましては、こちらも一つの手段というふうに考えてございますけれども、まず現在のお店の状況を踏まえますと、やはり雇用している方への賃金の支払いだとか、あとは今すぐに対策を講じなければならないというふうに考えてございますので、対象となる店舗に直接的な支援を行ったほうがよいと判断いたしまして、こういう選択を行わせていただきました。

今後も、ワクチン接種によりまして人の動きが活発化されるのを願っているところではございますけれども、私どももここは予測がつきませんので、今後も引き続き、市内経済の状況を見ていかなければならないというふうには考えております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） 今回の給付金、予算を頂きまして、本当に感謝しております。その上で、本当に申し訳ないのですけれども、こういった非常に効果があったものですから、お話をさせていただいております。

やっぱりワクチンの普及は、一つの終息に向けて、また、社会経済活動のアクセルを開けるきっかけにはなるというふうに思っていましたので、今、4月26日の週から三笠市の場合、1箱、次がこれ、いつになるのか、案外いつになるか分からないと言っているときに限ってすぐ来たり、その辺もちょっと分からないのですけれども、ただ、今その辺の先行きがちょっと見えないものですから、多分国としても、ある程度ワクチンが普及されれば、また国としての経済対策というか、そういったものは打ってくると思うのです。そこに合わせて自治体もやっていくという方法も1つあるとは思うのですけれども、やはりその中で今ワクチンの普及がちょっと見えないという部分があるものですから、当然今回の給付金はありがたいのですけれども、効果のあったテイクアウト、それとプレミアム付商品券、どちらかというところ、消費者よりもいわゆる事業をやられている方たちへの支援と

ということのプレミアム、そういったものをぜひとも検討していただきたいなと思います。

行政のほうも、時期だとかいろんな部分で検討はされると思うのですけれども、これ私のお願いでもありますし、商工会からも特にテイクアウトは何とか再度実施していただけないかという要望もちょっと頂いていますので、当然給付金という部分で、商工会も非常にありがたいという部分で評価いただいていますけれども、ぜひともその辺についても、今後考えていただきたいなというふうに思います。

何かあれば。

◎議長（武田悌一氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（松本裕樹氏） まずは、先ほど申し上げたとおり、店舗に直接的な支援をさせていただきたいというふうに考えております。

あと、ここにつきましては、やはり引き続き市内の状況をしっかりと見た中で、対応すべきなのか、よいのかという部分は判断させていただきたいというふうに考えております。また、国と北海道の動向も踏まえながら、ここはしっかりと注視してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（武田悌一氏） 折笠議員。

◎3番（折笠弘忠氏） よろしく申し上げます。

このコロナ禍は今後もまだまだ続くと思いますので、行政の皆様、この1年間非常にいろいろと頑張ってください、これがまたさらに半年、1年続いていくかと思いますが、非常にその御苦労に本当に感謝するところでございますけれども、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） 今ほどありましたことですが、ワクチンの関係ですね。今、4月の末に1箱配付ということですから、恐らく相当な遅れがあるということだと思いますが、国も相当力を入れているようですから、6月いっぱいまでになんて言っていますが、7月ぐらいまでに高齢者ということだと。

私は本当はちょっと違まして、高齢者とか、今日も新聞に出ておりましたけれども、病院の方とか高齢者施設、これは大事だと思うのですけれども、本当、逆に国が考えているのとは違って、若い人に先に打たなければ駄目なのではないかなと。ほとんど若い人がいろんなものを持って歩くというか、その方々を止めないと、うちのまちみたいなものと都会とは違うと思っていて、うちのまちみたいなところは、むしろ非常にお年寄りはもう、ちょっと市がいろいろ発表すると、それにさっと従っていただいて、本当に真面目に考えていただけるのですけれども。だから、逆に大きく市内でありました、もう若い方が持ってきて、施設でと。

だから、そういう点で言うと、若い人が先に打つと、うちみたいなところだと本当はいいなというふうに思っていたのですが、これは市内でも今、幾つかの機関があつて、専門家の方々の御議論を頂いたことですから、私としてはそれに従っていきますけれども、そ

ういう感度を持っているということで、いずれにしてもワクチンの効果は、今朝も何かフランスの例が報道されておりましたけれども、非常に効果があつて、特に高齢者の死亡率がぐっと抑えられているということをお聞きしましたので、こちらのほうはそこに今後期待していきながら、一日でも早く行政としてはスムーズにワクチン接種が進むように努力してまいりたいというふうに思っております。

それから、雪対策ですが、冬快適プランもつくりましたが、非常に大きなお金を必要とするということと、非常な水量を必要とするということなのですね。ですから、本当は坑内水なんか相当たまっているの、これを三笠で言うと三笠の山の上に持って行って自然融解で落とすと相当効果が生まれるのではないかなというふうに思っていましたけれども、費用がかかり過ぎるということで、これはちょっと置いておいたのですけれども、昨日の御質問の中で只野議員のほうから、これだけ空き地ができるのだからということをお話しいただきました。非常にありがたい考え方だと、私、思っております。

今、今年ほどの大雪でも、あまり自衛隊まで、最後の段階では、私、頭をよぎっていましたが、お呼びしなくてもよく何とかなったということは、あちこち空き地ができている、そして空き家もありますから、空き家のところはあまり除雪に配慮を、どうしても必要としない。それに、さらに空き地があると、そこに押し込む要素にもなっていくということで、それが非常に幸いしている部分は逆にあるのだということでもありますから、そういう点でも、地域地域に皆さんが捨てられるような雪の堆積場みたいな形で、時々市がちょっと押し込むか、何か手を加えてあげたらできるのであれば、必ずしも全部のところにきちっとそういう空間があるとは限りませんが、何か一つのヒントになったなというふうに思っております、大変ありがたい御提案を頂いたなという認識でございました。

それから、DMOのことですが、これ、部長の答弁では自立できるDMOと言いましたが、一遍に自立できることは、私、今まで関わってきても非常に難しいと。私も、実は今の観光協会に提案して、何でもただ会費みたいなものを集めて歩くわけですね。私、会員だったけれども、集めて歩いて、どんなメリットがあるのと。そして、ちょっと多めに取られるのです、私なんかね。そうしたら、たまらないですよ。毎年毎年それをやっていて俺に何のメリットがあるのよと、何も無いではないかと。それで、一時こんな小さな券を作らせて、それをお店に持っていくと、そういう加盟店は幾ら引くよとかという、そういうのを1冊に何枚かをつけてやってくれというふうにやったのですけれども、やはり使われないからやめましたと、次の年言うのですね。使っていただく努力をしなければならぬのに、だからやっぱり組織そのものがしっかりしなければ駄目だというのが今回の感想です。本来からいえば、観光協会そのものから、こういうDMO化していきたいというような考えが出てくればよかったです、なかなか出てこない中で、我々のほうから言わせていただいて、もう岩見沢にも当然機能しておりますし、先ほど彼が言ったようなところも機能している。

非常に、地域資源を寄せ集めて、本当にいいもの、いい観光をつくっていくという点では、私どものまちは、本当にある意味、言葉で言うと、ちまちましたものがたくさんあるということなのだろうと思うのですが、でもそれは意外と外部の方々が来ると、魅力的なものでもあるわけですね。だから、それをきちっとしたものにまとめていくということが大事なだろうと。最終的には、確かに彼が言うとおりに、稼ぐ力をちゃんと持っているDMOだと思うのですが、そう簡単にいくことでないでしょうから、それは少しずつ行政も応援しながらやっていかなければならない。その際には、またいろいろ議会のほうにも御相談を申し上げなければならぬというふうに思っております。

それから、今こういうふうにジオパークを私どもやっていると、鉄道村というのは、僕は大切な資源だと思っています。たくさんの批判のことがあって、たくさん時代を経てきた、そのもの、私は直接の担当者でも何でもありませんが、見てきました。ある意味、戦争の愚にもなった時代がありました。非常に不幸な時代だったと私は思っています。鉄道村は、その時点の整備からほとんど完全に止まっているわけです。でも、私は、もうやはり整備をある程度進めていく必要があると、今お話しいただいたキャンプなんか絡んでいろいろ工夫していくとか、ジオパークに絡んで工夫していくとか、もっとこういう整備をしたらいいのではないかと、そういうことも必要なだろうと。

今で言うと、博物館と鉄道村が、外部から来た方が金を落とす場所なのですね。ですから、非常に工夫すると面白いものになっていくことは間違いないと。鉄道ファンもたくさんおられるし、これを有効に活用していくためにも、今後そここのところの整備も考えていかなければならないのだろうなというふうに思っていますし、三笠から鉄道と石炭の歴史を切れるわけがない、100年たっても、200年たっても切れるわけがないと思います。加えて言うと集治監だと思うのですが、そういうものをしっかり寄せ集めた中で、皆さん総合的な魅力を引き出していないと、今日お話しいただいたような、いろんな、キャンプ一つにしても、魅力的なまちではないと行く気がしないと思うのですよ、恐らく。商業でもそうだと思うのですよ。後継者づくりでも、やっぱり魅力的、まちの魅力が先になければならない。そこをしっかりとつくっていく限り、きっと駄目なのだろうと。

だから、特筆するような、以前に申し上げたかもしれないけれども、徹底的に経済自立するまちか、物すごい匂いのきつい個性のあるまちか、どちらかが地方のまちとして残っていく要素なのだろうとすれば、私どもは後者のほうだと思うのです。それをしっかりまちとしてつくり上げていくという努力が必要なだろうというふうに思っています。

あと、高校生のことについては、まず先に、もう料理のことはかなり学んで、早い卒業生はもう5年、6年たっていますから、力をつけてきているのだと思うのですが、こここのところが一番大事なだろうなと思って、突然来て、はい、お店をやいなさいといったって、できるわけなのだろうと思います。だから、そういう経営能力を付加させていくような、そ

ういうまの工夫というのが必要なのではないかなというふうに思っておりまして、そういうところに少し力を加えていきながら、行政がお手伝いできる部分をしっかり考えてまいりたいと思いますので、どうもありがとうございました。

よろしく願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） 以上で、折笠議員の質問を終わります。

これをもちまして、市政執行方針及び教育行政執行方針並びに議案第17号から議案第23号までについて、通告のあった質問は全て終了しました。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第17号から議案第23号までについては、9人の委員をもって構成する特別委員会を設置し、付託の上、審査することにしたいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

議案第17号から議案第23号までについては、9人の委員をもって構成する特別委員会を設置し、付託の上、審査することに決定しました。

続いて、お諮りします。

ただいま設置されました特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条の規定により、配付した一覧表のとおり9人を指名したいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

ただいま指名しました9人の議員を特別委員会委員に選任することに決定しました。

---

## ◎日程第2 議案第4号から議案第16号まで及び議案第24号について（特別委員会付託）

---

◎議長（武田悌一氏） 日程の2 議案第4号から議案第16号まで及び議案第24号についてを一括議題とします。

前回の議事を継続し、直ちに質疑を行います。

（「なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 質疑ないようですから、質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第4号から議案第12号まで、議案第13号から議案第16号まで及び議案第24号については、さきに設置した9人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

9人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することに決定しました。

---

### ◎休 会 の 議 決

---

◎議長（武田悌一氏） 休会についてお諮りします。

議事の都合により、明日3月20日から3月24日までの5日間、休会したいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

3月20日から3月24日までの5日間、休会することに決定しました。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

---

### ◎散 会 宣 告

---

◎議長（武田悌一氏） これをもちまして散会します。

御苦労さまでした。

散会 午前11時48分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和 年 月 日

議 長

署名議員

署名議員